宗像

元日の神門内

平成二十二年正月三箇日 六十五万人が参拝

神武天皇即位紀元二六七〇年、平成二十二年「庚寅」の新年を迎えた。

午前零時、新しい年を告げる本殿の大太鼓が響き渡るなか神門が開かれた。

初詣の人々の波は瞬く間に拝殿前に広がり、拍手の音が響き渡る。新しき年に祈る人々の熱気が境内に満ち溢れた。

大晦日は今冬一番の寒さとなる。午後三時からの年越しの大祓式には寒風が肌を刺す厳しい寒さにも拘わらず、神門前に約三百名の人々が参列し斎行され、引き続き本殿にて平成二十一年を締めくくる除夜祭が斎行された。午後十時、神門を閉じ新年を迎える準備を整える。

2日の神門前

宗滴

正月参拝の賑わいが再来した一月十六日、本年最初の神前結婚式が斎行された。この時期に申し込まれるのは初めてで、翌日もその翌週も「友引」など六曜が良く斎行された▼当大社には「清明殿」という屋内の結婚式場が別棟にあるが、三年前に本殿（大前）でも挙式できるよう調度装束を整えた。その甲斐あってか、現在申し込まれる挙式のほとんどが本殿で斎行されている。大神様に最も近いこと、雅楽の生演奏、奉仕員数等、現状で斎行可能な「本物」であることも人気の要因であろう▼我が国の結婚式が一般に普及したのは昭和二十年代、そこから紆余曲折し一旦減少していた神前式が、今日「和婚」とも呼ばれ増加傾向にある。しかし、不要なものは徹底的に淘汰される現在、氏子・崇敬者の求めるハードルも高くなっており、小手先やその場凌ぎでは通用しない。真摯に向き合い、我が国に相応しい本物の「祈り」としていくことが、今だけではない伝統文化として昇華していくことになるはずである▼年末には「チマチョゴリ」を着た在日三世の新婦さんが神前式を挙げられた。グローバル化という波を神社でも感じたが、日柄、日和に恵まれたその日の清々しさが強く印象に残っている。（塚）

2月祭事暦

毎月1・15日 月次祭
午前10時～
高宮祭
第二宮・第三宮祭
宗像護国神社祭（1日）
午前11時～
総社祭
浦安舞奉奏（1日）
豊栄舞奉奏（15日）

3日
節分祭 午前11時～
於＝本殿
豆打ち式 午前11時30分～
於＝本殿横特設ステージ

11日
建国祭 午前11時～

神具・装束・授与品
井筒
装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る フリーダイヤル 0120-075-980
福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401 フリーダイヤル 0120-055-092
授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23 フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技
総合建築業 株式会社 弘江組
〒811-3406福岡県宗像市稲元4丁目1-20 電話(0940)32-2567

3日の神門前

神門前には、午後十一時頃より、初詣参拝者の長い行列が出来、今年は神門前から第一駐車場の社務所前まで続いた。心字池には太鼓橋を渡る人々の姿や、露店の灯りが映し出され、手水舎の前には篝火が焚かれ開門を待つ多くの人々の姿を浮かび上がらせていた。

本殿、祈願殿の各守札授与所、福みくじ、縁起物授与所には、神職、巫女、巫女見習が迎春準備を整え待機。神酒授与所には、地元総代・協力会員にご奉仕いただき、今年もノンアルコールの甘酒を用意する。各駐車場には警備員三十名が車の誘導・整理にあたる。午前零時の神門開扉には、宗像市消防団、ふくろう部隊、宗像警察署のご協力を頂き、初詣の人々を安全に拝殿に誘導していただいた。

開門と同時に本殿へ進む参拝者（元旦午前零時）

元旦、午前九時より国家・皇室のご安泰、国民の幸福を祈る元旦祭を、翌二日、新年二日祭、三日には新年三日祭と宗像護国神社祭を斎行。平成二十二年の始まりを寿ぐ祭典は滞りなく斎行された。

正月三箇日は、冬型の気圧配置により大変寒さの厳しい日が続いた。特に元旦は、大晦日からの大寒波で、各地で大雪となり、帰省客に影響を及ぼした模様。この寒波も一日の午後より次第にゆるむが、初詣の人々は凍える手と手をこすり合わせながら参道を進まれていた。二日は、時々青空が広がる天候となり、早朝より参拝者で大いに賑わう。しかしこの天気も午後五時頃には急変し雨となる。三日は、晴れ間広がる清々しい一日となり早朝より多くの人出で賑わい、周辺道路は大渋滞となった模様である。

大晦日～元日の拝殿前

祈願祭は、元旦の午前零時、本殿において恒例の九州旅客鉄道株式会社の新年一番祈願祭が斎行された。祈願殿では、新年交通安全の一番祈願祭が多くの祈願者参列のもと斎行され、車とともにお祓いを受けた。今年はエコ・カーの祈願が多く、昨年から車祓いは増加の傾向にある。仕事始めの四日は、背広、企業の制服姿での参拝者で境内は賑い、本

便宜の為、絵馬堂とは別に設けられた絵馬掛所

福みくじ授与所前の賑わい

殿・儀式殿は企業・団体の新年祈願で混み合う。この日は、時々雪が舞い午後からは突風が吹き荒れる大荒れの天候となる。

各社頭は、巫女・巫女見習を中心に参拝者の応対をする。今年は本殿の東授与所の軒下に、「神札・お守り」の案内展示ケースを新たに掲げたため、混雑する西授与所の緩和する事が出来、本殿各授与所にスムーズに人々が誘導された。「福みくじ」の授与所では、「今年最初の運試し」と籤を求める人で大変な賑わいをみせた。

今年も参拝者の休憩場所として、特別に勅使館を開放し「茶房」として抹茶、甘酒、コーヒーをメニューとして用意する。厳しい寒さの中、冷えた体が温まり大変好評であった。

本殿前西授与所前の賑わい

宗像大神御降臨の場所である高宮祭場には、今年も家族連れの参拝者がひっきりなしに訪れていた。高宮の授与所には正月用に特別にお守りが用意されたが、予定を上回る体数が授与された。近年は辺津宮本殿の参拝に続き、沖津宮を祀る「第二宮」、中津宮を祀る「第三宮」、そして高宮へと、宗像大社の境内をよく知る方々が多くなってきているようである。高宮へとすすむ途中に恵比寿神社が鎮座している。このお社の裏に「バクチ」の大木が聳えているが、最近、この「バクチ」の勝運のご利益にあやかろうと、恵比寿神社にお参りする人が多く見受けられる様になった。十日、この恵比寿神社で宗像市商工会神湊・田島地区の関係者多数参列のもと十日えびす祭が執り行われた。

十日、十一日の連休には、大型バスでの初詣参拝団も多く境内は大いに賑わう。十日は、午前十時頃より各駐車場は満車状態となり、周辺道路は渋滞する。各授与所前は新しいお守りを受ける人々で賑わった。祈願殿は新年交通安全祈願を申し込む人々で混雑し、お祓い受ける車がつづいた。又連休は新成人の若人達の参拝で賑わい、境内のあちこちで記念写真を撮る晴れ着姿の新成人が見受けられた。九日にはヤマザキ製パン㈱福岡工場社員の成人祭が当社祈願殿で目出度く行われた。

正月三箇日の宗像大社の初詣参拝者は六十五万人を数えた。

ノンアルコール甘酒をふるまった神酒授与所

古札納所

例年より早く始まった会社参拝（4日）

西授与所に続き、本年より守札の掲示が行われた東授与所

献米奉告祭斎行

新春の一月十三日午前十一時より献米奉告祭が、引き続き鏡開きが行れた。

この神事は、氏子の皆様から寄せられた新穀を御神前に献上し、昨年秋の収穫を神恩に感謝すると共に、今年の五穀豊穣、無病息災を祈る神事である。

当日、この冬一番の冷え込みとなり、寒風吹き荒び、時折雪の舞う中にもかかわらず、安部照生氏子会長以下宗像・福津両市内の氏子総代多数が参列し厳粛に執り行われた。

祭典では有高芳治氏（宗像市曲）が、氏子会を代表し奉幣使として御奉仕された。前日から当大社に斎泊精進潔斎の上、斎服を着装して祭典に臨まれ、着慣れない白衣白袴・冠等に戸惑いながらも無事に氏子奉幣詞を宗像大神の御前で奏上、大役を見事に果された。

その後、清明殿を会場に「鏡開き」が行われ、直会として皆で雑煮・ぜんざいを頂き、新しい一年を清々しく過ごすことができると和やかに当大社を後にした。

尚、ご奉納いただいた献米は、日々の日供祭をはじめ諸祭典の神饌としてお供えし、皆様方の安全と繁栄を御祈念致しております事を御報告致し、衷心より御礼申し上げます。

平成22年 献米奉告祭氏子奉幣使
有 高 芳 治（宗像市曲）

田島地区地元総代 大幟を奉納

昨年十二月十五日、田島地区地元総代による大幟の新調御奉納があり、午前十一時斎行の総社月次祭に引き続きその奉納奉告祭が執り行われた。

辺津宮第二鳥居前の大幟は、「國家安泰」「萬民和楽」と大書され文字通りの意を大社に祈念するもので、代々田島地区の地元総代・協力会の皆様方より御奉納頂いている。前回は、平成八年の御奉納で約十四年の歳月が経過している。その間、風雨によく耐え適宜に補修を重ねるも、現職総代の方々よりこの度新調奉納の声があがり平成二十二年の正月に間に合う様に事が運ばれた。

当日は、総代の皆様が御参列滞り無く祭典を終え、大社五月寮にて直会が催された。直会では総代の皆様と宮司を始め大社神職との懇親も深められ、無事大幟を奉納出来た安堵と喜びに話も弾んだ。

後日の十二月二十九日には、新年に向けた総代奉仕があり、その際に始めて新調された大幟が境内に翻り一同感激もひとしおであった。

ここに、田島地区地元総代の皆様に心より御礼を申し上げると共に益々の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。

大幟奉納・田島地区 地元総代 御芳名

松井 善徳
中野 健介
吉田 稔
吉武 政和
中野 正利
岩佐 剛
花田 清巳
吉村 勝美
中村 廣中

年越しの大祓神事・除夜祭

十二月三十一日午後三時より、神門前で年越しの大祓神事が、続いて本殿で除夜祭が斎行された。

寒波が襲来しこの冬一番の寒さとなり、突風小雪の降る天候であったが、新年を清々しい気持ちで迎えようという多くの参拝者が詰めかけた。

大祓式は七月三十一日とこの十二月三十一日の年二回行われているが、七月を災難消除、農作物の豊作を祈る「夏越の大祓式」、一年の罪・穢を祓い清々しい気持ちで新年を迎えていただく十二月を「師走の大祓式」と呼んでいる。

定刻、新年を迎える準備が整った神門前に参拝者が続々と詰め掛け、高向宮司以下奉仕神職が参進、まず渡邉禰宜が大祓詞を奏上、続いて参列者各人に配られた「切麻(きりぬさ)」で祓い、続いて「祓物(はらえつもの)」に息吹を吹きかけて切り裂き、天・地・人形を「大麻」にて罪・穢を祓い清めた。

参列された小さな子供から年配の方まで皆寒さに震えてはいたものの、神事を終えると清々しい表情が溢れていた。

引き続き、本殿で除夜祭が執り行われ、今年一年戴いた宗像大神様の御加護に感謝し、皇室・国家の繁栄、世界の恒久平和、氏子崇敬者の皆様方のご健勝を祈念し、平成二十一年の諸祭儀は全て滞り無く終了した。

その後、神門は一旦閉じられ、平成二十二年元日午前零時に再び開門、多くの初詣参拝者をお迎えした。

節分祭の御案内

本年も下記日程で節分祭を斎行致しますので、皆様振るってご参列下さい。

2月3日(水)

◎節分祭　午前11時～　於＝本殿

◎豆打ち式　午前11時30分～　於＝本殿横　特設舞台

※少雨決行ですが、雨天の際は昨年同様、祈願殿にて祭典・豆まきを行います。

大島・中津宮の正月

朝から雪が降りこの冬一番の寒さとなる中、新年を迎え中津宮の神門前には開門を待つ人々の列が並んだ。午前零時定刻、境内に太鼓の音が響き、奉賛会員の奉仕により開門。島内氏子をはじめ、正月を故郷で過ごす為に帰島した人々が神前に進み、祈りが捧げられた。

成人式を迎えられた大島の新成人13名

社頭ではお守り破魔矢等の縁起物を受ける参拝者に加え、神門脇回廊に設けられた恒例の「中津宮新春福みくじ」にも長い行列ができた。本年はJA宗像大島支店のご協賛を受け、福運を授かろうとする人々で大いに賑わった。

境内では大島の春日丸組、宮地丸組、沖栄水産の巻網船団奉納のブリを使った作られた「開運ブリ鍋汁」が参拝者に振る舞われた。

心配された天気も明け方には晴れ間がのぞき、初日が昇る中地主祭を斎行。引き続き、午前七時に元旦祭が斎行され、国家・皇室の安泰と島民・国民の幸福が神前に祈念された。

二日は天候に恵まれ、大島出身者を対象とした成人祭が午前十時より行なわれ、本年は十三名の若者が新成人を迎えた。恩師、保護者の見守る中、島外で暮らしている方も多いようで、恩師を交え思い出話に花を咲かせていた。また三十三歳、四十一歳、四十四歳の厄除晴厄年の祈願祭も斎行され、島にそれぞれ同級生が集まり久しぶりの再会に境内は終日賑わいをみせた。

中津宮福みくじの様子

三日には午前十一時より元始祭並びに宗像漁協大島支所の大漁祈願祭が斎行され、沖・中両宮奉賛会・翼賛会並びに、漁業従事者参列の元、今年の海上安全と大漁満足が祈願された。祭典終了後には、社務所に皆集まり、宗像漁業協同組合山口國一組合長による新年の挨拶により直会が行われ、一同本年の豊漁を祈念した。

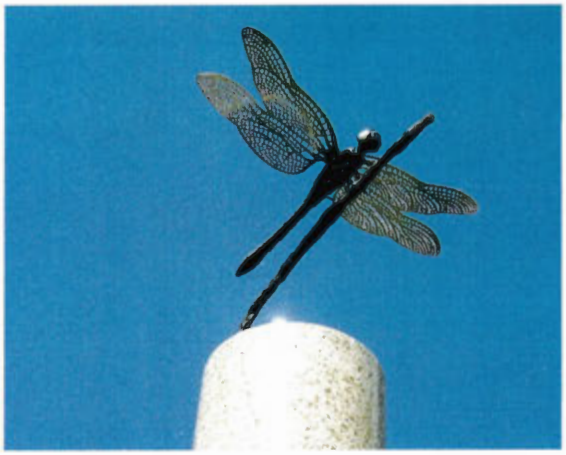
毎年好評の「開運ブリ鍋汁」

今年の大島正月は、大晦日以外は概ね天候に恵まれ、中津宮の社頭は大いに賑わった。ご協力、ご協賛を賜りました島内氏子の皆様並びに崇敬者の皆様に厚く御礼申し上げます。

(続) 浜の寄物

242

いしい ただし



トンボ(蜻蛉)、アカトンボ、オニヤンマ、シオカラトンボ、イトトンボなど、子供の頃には捕って遊んだ記憶の方もあろう。捕虫網でトンボを追い、棒や竹にとまっているのを手掴みしたり、オニヤンマは糸をつけて遊んだり、小川や溝で魚取りをすると、トンボの幼虫、水蠆(やご)がザルに入って、これがトンボになると聞き驚いたこともある。

盆ごろのアカトンボは、空いっぱいとんでいるが「仏様がこれに乗ってこらっしゃるけん殺したりしたら罰があたるよ」と母から聞いたこともある。トンボは少年時代の思い出がいっぱいつまっている。

稲作入ってきて水田稲作が行われると、釣鐘状をした祭具の銅鐸(どうたく)が出現する。その表面にはトンボの絵が鋳出されているものがある。滋賀県新庄出土の銅鐸には、水辺の生物が描かれている。トンボ・カニ・イモリ・スッポン・カエル等があり、まさに水田の風景である。弥生人が常に見、親しんだ身近かなものであった。

カイ(貝)、ポールの上には、波間に漂う二枚貝と巻貝(まきがい)がある。古賀ゴルフ場の裏は玄界灘、新宮・磯崎から、福津市の楯崎は約九キロの弓状の浜で、岬・崎の突端部と弓状の浜が玄界灘にむけて交互につらなって「パラソルのふち」と呼ばれる。

浜の貝もめっきり減ったがまだ二枚貝や巻貝の生貝は生息している。春の大潮時には、貝掘り具を使って砂をかき、チョウセンハマグリやバカガイ、コタマガイ、ツメタガイ(巻貝)がとれている。夏の潮の干満時にはたくさんのナミノコガイ(波の子貝)を見る。形は小さいが、スープにすると味がよく出て、スープガイの異名がある。

昭和四十七年、鹿部山調査が行われた時に近くの水田のところで小さな貝塚が発見されたが、アサリやコタマガイ・ツメタガイ等があった。当時花鶴川が大きく入り込み、泥地となってアサリも多かったのかも知れない。現在この海岸ではアサリも福津市の西郷川川口の南側と、津屋崎渡の泥地ぐらいしか見られない。

アサリはひな祭りの頃が一番身が入って美味だが、外国産のものだろうか、身が小さく堅いのがある。国内産が減少し、外国から輸入して、有明海などに一時備蓄して国内産とする業者があとを絶たないのは困ったものである。

ハマグリはほとんど外国産という。外海の貝では海の中で足を使って砂を掘ると、コタマガイと呼ばれるハマグリに似た貝があたる。ハマグリよりも平たく煮ると殻の表面が変色する。あまりうまくない。

貝殻の採集は冬がよく、海が荒れた時に死殻や生貝が多く漂着している。ウグイス(鶯)、彫刻の鳥はウグイス、別名を春鳥、春告鳥、歌詠鳥といっている。冬が終わるころ梅の花が咲くと、ウグイスの声で春が来たことを実感させてくれる。

ししぶ駅のモニュメントは、鹿部の人達にとっては身近かなものであったが、団地ができて、遠くのものとなってしまった。かつての風景と歴史はこのモニュメントで記憶にとどめることになった。できれば駅前の案内板を見ながら、鹿部山や古賀市立歴史資料館を訪ねるともっと深くのことを知ることができよう。

第五八二回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日〆切

宗像市　土穴　山本　静子

小石とも見えしが動きてあら鴨だあそこにもいる浅き流れに

評 理屈を超えて作者の驚きが伝わってくるところがい。短歌は啖呵である。

北九州市　八幡西区　吉田ウト子

まっさをな空に象嵌成せるごといちやう巨木の黄葉まばゆき

評 「象嵌なせる」など老練な一首である。象嵌を受けて結句は、「ひかるも」も考えられる。

北九州市　八幡西区　遠藤　幸子

水仙の白いきおえる絵手紙につつがなき友の面輪たちくる

評 絵手紙の筆致から健康の度合いが判る程に親しい友である。持べきは友だ。

福津市　若木台　山﨑　公俊

菊花展をはれり柱を巻きてゐし紅白の布をひとは解きつづく

評 菊花展の余韻まださめやらぬ作者、ただ「柱を」とすると柱が主格となるので「柱に巻きてゐし紅白の布解きつづくひとは」と人を主格としたいと思う。

福津市　若木台　野間　精一

海老色のしゅろの繊維で柿を吊る玄海灘の潮風受けて

評 労働賛歌の一首、海老色が印象的でお手柄。

北九州市　八幡西区　豊田ミツ子

ひそやかな贅沢ならむ一粒の真珠を手組みの帽子につけたり

評 面白い素材、ただ真珠をつけたのが本人なら二句は「贅沢としも」、他人なら結句は「つけをり」である。

うきは市　浮羽町　向　則正

はがくしの渋皮むきて五十個ほど紐に結はへて寒に晒せり

評 孫の食べるさまを思いながらの楽しい手作業のひとときである。

宗像市　東旭ヶ丘　天野　玲子

空港の食堂にいて聞く言葉右席ハングル左は土佐弁

評 国際化いち著しい空港での一風景であり、平和でのどかなひとときでもある。うまい歌。

宗像市　田野　森　甲子

冬空を映して流るる釣川に鴨のひと群れ並びて泳ぐ

評 格にはまった端正な一首。下句がややパタン化しているので、釣川を除いて鴨の動きをもう一度描写して欲しい。

宗像市　日の里　大和美由紀

苔まとふ石の神牛撫でながら思ひ出しをり牛飼ひし頃

評 「牛飼ひし頃」で一首に生気が出ている。巧い。

福岡市　南区　井田有久衣

神奈備の三輪山仰ぎ拝殿にぬかづきいればとどろく太鼓

評 太鼓の音に身も心も清められた作者である。

福岡市　南区　加野シノブ

裏耶馬溪紅葉にそまる山すその家見えかくれ絵の如くして

評 今年の紅葉は何処も美しかったとか、名高い耶馬溪の紅葉に心うたれたのであろう。

選者詠

腕の痣目の上の疣(いぼ)失せにけり身の衰への証しのごとく

寒灯下食事のあとの皿洗ふ己ののしり己を褒めて

目眩ひしてベットにをれば軒端に舌打つごとく鳴く寒雀

第五五七回 俳句作品集

宗像市　神湊　永島　紀子

コーラスの青春歌謡秋惜しむ

第四楽章堪へきれずの咳こぼす

宗像市　平井　占部　詩子

神木も杖つく齢冬の鴉

宗像市　日の里　花田いつ枝

掃き終へし庭より暮るる冬至かな

御座船に波立ち上る浦祭

編集後記

司馬遼太郎氏が十年間取材し、二千万部を売り上げた国民的文学ともいうべき「坂の上の雲」が年末ついに始まりました。ようやく映像化が許され、全十三回、三年に亘り放送されるようです▼武士の時代を経て、国民一人一人が国の近代化に取り組み、存亡をかけて戦った日露戦争、その激変に比べれば今の日本が求められている時代への対応というのはかわいいものかもしれません▼グローバル化の波に洗われながら国家や民族のあり方をめぐり混迷を深めている現代、政権交代したとはいえ国民一人一人が真剣に向き合っているのかといえば、そこに疑問を抱かずにはおれません。明治という時代には、現代の日本人が忘れてしまった姿があるように思えました▼と言いながら、未だ読破できてはおりません。「沖ノ島」も登場するようですので、次の沖ノ島勤務に持参しようと思います。（塚）

発行所 宗像大社社務所 宗像会

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311（代）
発行人 葦津幹之
編集人 大塚宗延
制作 ゼネラルアサヒ
印刷 ゼネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共1,000円